

我ら 50 期 ここにあり

社会で必要とされる人材 ～3種類の自立～

①経済的自立＝自分で仕事を通じて糧を得て、自分・愛すべき家族を養って守っていく力のこと
②精神的自立＝辛いことや壁にぶつかっても人生リタイアしてはいけません。しんどいことや辛いことがあってもそれを乗り越えていけるような力、自分に勝つというようなたくましい力、③社会的自立＝自分のことだけではなく、周りのこと自分以外の他者や集団、社会のことにもバランスよく見ていく力を持っている人が必要とされています。自分のことは自分でして、自分で言ったことやしたこと責任を持ち、自分の未来や将来、能力や可能性に気づき、主体的に伸ばしていく人。そんな人が求められています。

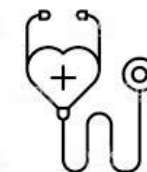


世界の企業で必要とされる力

①未来志向（目標・目的設定）、②課題発見・解決力＝ソリューション、③セルフマネジメント（セルフモチベーション）、④ITを使いこなす力、⑤コミュニケーションとしての英語力、⑥意思決定の6つです。どうせ自分は世界に関係するようなことに関わらないでやっていくとか、ITを使う仕事には就かないからそんな力はいらないとか思う人もいるかと思いますが、本当にそうでしょうか。みなさんがこれから生きていく社会は、自分だけ、日本だけ、地球だけを見ていてやっていけない社会です。世界のあらゆる情報をキャッチし、世界の人々と手を取り力を合わせて生活をしていかないと今ある生活の継続が難しくなっています。そんな中で、今の自分のままでよいのでしょうか？いや、いいはずはありません。未来や将来は気づき、今を頑張り、成長したあなたを待っています。



侵害受容② ～痛みを感じることは自分を守ること～



生まれながらに先天性無痛無汗症という難病を患っている子どもは、25歳以上生きられることはめったにない。生まれたときは、他の子と変わりなく見えるが、歯が生えてくると問題が起こる。痛みを感じないので自分の指を食いちぎってしまうことがあるのだ。骨を折ったり、手を火傷したり、膝をすりむいたりしても、血やあざを自分の目で見るまで、けがをしていることに気付かない。そのため、複数の傷による重度の感染症で命を落とすことが多い。「病は気から」ではないが、痛みは間違いなく私たちの頭の中で起きている。脳の様々な部分がネットワークを組んで働き、ペイン・マトリックスとも呼ばれる痛み関連脳領域を形成する。このマトリックスの、ある部分が私たちに痛みの強度を伝え、別の部分が痛みの場所や、持続時間、痛みの種類——ヒリヒリ痛むのかズキズキ痛むのか激痛なのか——などを知らせる。

2つの生き方 ～過去に生きるか未来に生きるか～



人は基本的に2つの思考を持ちます。1つは過去の経験・体験を基に生きようとし、それを「過去思考」といいます。現在の先行き不透明で未来がどうなるかわからない時代を過去思考だけでやっていくのは難しそうですね。その反対を『未来思考』といいます。まず自分の未来を決めるのです。未来とは人によって色々言い方や考え方がありますが、夢・希望・想い・理念・ミッション・ビジョン・目標・目的のことです。まず。なりたい、欲しい、得たい、望む未来を思い描いて作って、その未来の高みから今の現在の自分を見るのです。未来と現在、このところで頑張るということです。そんな理想の自分を描いて未来の自分から自分を見ますと、皆さんのような素直に頑張るような人たちはイライラしたり焦ったりするのです。そのような健全なイライラや焦りのことを「モチベーション」といって、長期的なやる気の原点になります。ですから、未来を決めてそして現在を頑張るって、じゃあ過去はどうするかというと、過去は一旦置いていきましょう。トラウマや過去の失敗をほじくりだしてどうのこうのはしません。「希望・望み・願い」を未来に作って、現在の自分と勝負して全員で成果を出す『未来思考』を身に付け、なりたい自分や思い描いた未来を手に入れましょう！